



北
飯
夷
嶋
新
説

全

ル 4
1247



門 八 4
號 1.247
卷

14

北極乃新說

外國叢書

二十五

同年秋再び同定其籍を〜地圖を
なす〜久人き之其要地より〜所謂
ヲロツコロスノシクル乃地を徑く故よりこ乃為
乃地圖をとり紙々海を越く〜車輪より入
其假府徳標哩名と称す此よりより清正の
官より接〜る所名を同ひ〜他事所業を
同〜同年冬十月 松平府より歸り〜と
以婦

島名

一此島を始〜カラフトと云ふ事其由来を
考ふるに其花の色を巡〜るに在る者
質同を〜と云ふ事其由来を考ふる者
似く此地夷人の始は在る事ありと云ふ
桑地夷人の事〜とカラフト乃始は在る事ありと云ふ
其花の事〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
事明く事

一桑地乃夷自始〜と云ふ事其由来を考ふる
其花の事〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
時を〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ

一桑地乃夷自始〜と云ふ事其由来を考ふる
其花の事〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
時を〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
一桑地乃夷自始〜と云ふ事其由来を考ふる
其花の事〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
時を〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
一桑地乃夷自始〜と云ふ事其由来を考ふる
其花の事〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ
時を〜と云ふ事此島乃其花の事ありと云ふ

テエウセと名づくエシウラを垂注いと注し又
物を因塞を以て乃て是ありエウセを島と譯を是
其島マニコー河に在る其流れを因塞を以て
ぬきたるを以て其島を以て其島を以て其島を以て
とも或は河を以て其島を以て其島を以て其島を以て
を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て
りしし其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

一 東夷乃何東鞋乃書かすわし拂郎控乃鞋乃乃中
つししもカラフトと名づく其島を以て其島を以て
其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て
其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て
其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

島と名づく其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

ソウヤニ流東一錦玉煙管乃鞋と名づく

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て其島を以て

如く四方割ありて懸崖の如しはつとすその
ふる度々其處を攀りまゝされい記する所ありす
とらへとも凡そ府乃白神峯と類を冠しや
ふとれともそと冠りてさく満州乃法夷
とらへともさく能く是を去れは又至海峯
しヨコタシと稱す其所よりトツロヨウシリと稱
す其山所り一名ホロノホリと稱すこれとて
麓趾より嶺上よりそれりて巖石墨として
懸崖の如しはつとす此山の名は中乃名山と
稱す也一在よそを圖をなす

一レラ又レを去る所凡百六千里とあり西海峯乃
桑地よりコライと稱す其所ありて是より凡一里
中許小乃方より二トニハレと稱す其よりして

そのとトンナイ千ヤ湖タライカ湖ありトンナイ千
ヤ湖を千用廻凡十三三里許りして東西より
南より横一其四方丘園是を圍ふ水破其内
を流して海岩を去るなりをわからずといふ
もその地帯あり産する所の魚類多て
鱈魚のこもりて子魚をへるものあり此湖
を流のそをシラスしより東三千里許りして
千へシヤニオホラツフニと程なり此湖
ありと陰より動きオントウと程なり山湖あり
より亦流りしてオホトラと程なり湖中を流る
なり凡二里許りしてトラキタイ千ベンヤニと云

川はよりよりありと陰より動き凡二十七所と
程なりニマムクしへつと程なり小川よりあり
あり一とトンナイ千ヤ湖より産するタライカ湖
用凡十一二里許りして東西より長く南山より横
海岸を去る事僅より六七所四方平原より
丘園の数を多く湖中より産する魚類の多くて
湖を流る一六湖あり水清りてわきわきと
産する魚類多て魚類比目魚類多しシラス
を去るなり凡百七十里あり西よりウヤクトウ
より産する魚あり是よりして魚類を産する
地より地ありて地園中より産する魚

以湖乃多きりかき得たれうなり

一 此處より吾地各河水悉く急流のみの
形く流く急流くく濁水ありその水
悉く急流の急を存して水味清く
なり

一 此處より吾地海面流く平くして激浪
形く去かれも吾地在靴の地方を隔る
る吾地間僅に十里七の急近所より吾地を
二三里を流過處あり中流激流所として
河水の鳴流すはくぬ
一 此處の内より此の所も減潮すれり吾地

その時よむく吾海面凡一甲の餘陸地あり
其地吾の至實より日本地のつんきり所として
吾地を吾地形れ急流一面に地下より
蒼茫くして海水を足れ吾地吾地
図写すれり難

奥地減潮図

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper and appears to be a continuous passage of prose.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper and appears to be a continuous passage of prose.

一 エラスシを去る凡七千里海西海岸あり
 ウシヨロと稱する所あり此處より西へ
 東麓地方の山をを望み此處を經凡廿五里
 たり是より東地漸く近くこれをのぞき
 ワケ一^地よりエコバ一^地の間にわけて僅一里を
 計して是を中むと以ふ
 一 島東東麓より越く海り口七所ありエラスシ
 を去る凡百七千里海西海岸あり一ノテトと
 稱する所あり^{スメリンクル島}此島より西へ東
 麓地方カムカクと稱する所あり海西海岸の
 間凡九里の隙を隔川とらるるも海上程々

一 大抵新事ある事あり此島より
 ナツコより北海路を沿附を熟察して
 舟を出さざればいふ所ありわづらふ
 如く此島減潮の時よりわづらふ海上一里の
 余陸地とありその陸地ありは所七
 海濱多し舟を出さざればいふ所あり
 満潮の時よりわづらふ海岸より海路は
 所あり能く潮時を考得る岩を去る
 事一里あり舟を出さざればいふ
 一 ノテト乃次形海者をナツコと云ふ^{スメリンクル島}
 其間あり凡五里海西海岸あり

東麓 カムカタ子玉 海乃 海路 僅より 四里 許を
隔川 子間 大板 程をり といふも 出崎
ふれハ 浪う 希 阿らく 踏り 減潮の 候上 又の
如く 其時を 地を 此ハ 海を 出崎
阿そ 魚類 其 其 類 糧を得
之 事 小 佐 乃 地 大 板
ノ 海 乃 所 乃 海 乃 所 乃 海 乃 所
風 吹 阿 乃 海 乃 所 乃 海 乃 所
時 乃 海 乃 所 乃 海 乃 所
走

一 十ツコ乃次 取 海 者 を 口 ケー と 稱 其 相 去 海 事

凡六里許海の事亦ノテトよりナツコト云々
如く能潮時を考へされハ云々事取を早は亦
よりして在麓ヲツタカハハと稱す此所は海流

其海流稍一里許許して海と穩々ありと
云々も迫不あれハ中流潮なりて急河の如く

ボコベイ眺望圖

一 凡候子係く 逆信 函を 没す 故に 所りといふ
一 ワケ一乃次 既 所を ボコベ一と 稱す 此等よりして
東 鞋 ワレフニと して 所は 没す 其 所 既 亦 僅なり

一 里を隔て 中流 潮後 毎ワケイ乃此し
 一 ボコベー乃次郎者 を ヒロワカセイと稱すボコベー
 をとるなり凡四里 許 付 愈より 一 東 麓 の 地 方 俣
 と 呼 ぶ 小 流 下 流 へ ワルケー と 稱 する 而 して 海 へ 出
 り ても 海 流 凡 十 里 許 を 隔 且 潮 時 の 候 又 此 流
 の 超 激 ありて 船 流 難 ありす
 一 ワカヤイ乃次郎 名を イエラヨイ とし 其 間 亦 此
 事 凡 十 五 六 里 許 を 隔 り 一 東 麓 地 方 下 口 一
 流 あり 海 流 凡 四 里 許 才 流 の 潮 路 難 急 激 あり
 此 處 一 一 して 漸く 小 洋 へ 出 け ぬ 而 して 西 麓 地 方 四 里
 を 隔 り 亦 亦 激 速 なる 事

多く 流 海 銀 難 あり といふ

附記

一 エラスエを去る所凡一里許を海岸よりコバウヤ
 橋を架けたりけり塔の舊址あり其地チヤシ
 と稱す其状圖の如く三面より堤を築き其
 一方を設けず三方の陸下悉く堤を穿つ所あり
 時又行きの、遠海所より年月塔主を去り
 居る所を製糸業の他新屋あり其地は
 東をシトコ岬 西を十二テールより其地東を
 海岸凡百四五十里の間其地はより得たりし
 所あり其地地理業然詳盡を有する所を
 去るといへども衆夷の傳説を去る所あり

その地を思ひしる所あり其地を去る所あり
 此を以て附記す

一 シトコより其地凡二十里許ありてクキラーと稱
 す其地あり此間乃海岸を沿く岩崖石壁あり
 して船をよるべき所あり其地は此間の地理を
 詳究し其地を去る所あり其地を去る所あり
 ルン。メルコアリーのヌイのヒロラーのラクター。ヘカキヨムラー

○エヤエ。ヒレントー。希と称す。教所。数千里の間。巻く

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

附記

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

フロウスマレンクル夫乃部族ありて其居夷
の洋多ふれ事堅固すべからん其地理を
大抵南方トニイチャよりシントコトニ
の如く入湾ありて地あり此を亦江湖の
多ふ事西海峯ノラト乃其地の如く
此を乃居夷も亦往昔満州より貢せり
後々入貢せらるるありと云りし

一西海峯イシララーより凡二千
里餘少地ニカウト
と稱す然れ其地是此島松山の
地にて西海峯
の地塊ニありは亦其地と
間を大抵ノテトより南方イトイの間
に在り

と云りぬは是を以てマシコト
何れをうくは而
あれハ海に法をうく
其地も亦海あり
進退すはるる居る
あれハ鯨鯨魚の類も
多く群集し地夷を
多ふは是れあり
是を位夷多し凡
三千四五居あり
皆スマレンクル
ラロコ夷乃居城
あり其地タムラ
ラー又タムララー
ロカウト乃三
重なる夷あり
多く大抵毎居
數千居あり亦
満州夷の居る
地ハラカシ
ニタチと稱す
其地首長のもの
も居りて時々
満州
より貢し其月
海面凍合の候
はあれハ山
夷
も亦居りて
交易をなす
といひしは
其地

一カウトより東海岩凡二十里存してヒレント
り多流干涸一大碑有りて地形大換タリイカリ
ツキラーニ多流海岩乃ニニニニニニニニニニニ
且東大洋をくく流所ナレハ其流ハ川も
予激くくくく流乃流也流くくくく得る流
多あり只中其より和夏乃同ハ流より多
碎水流れ出流を待く地表水を出し水不
出遊乃水豹を概一於流事多し只計時の
海上時平坦ナリナリナリナリナリナリ
一此島乃佐美と大換海岩とのそ居を有く山脈乃
ものあり且其地よりくくトモ一と稱す此川有り

島中一二の巨流あり其南岸大岳乃夷凡廿
四五里有りて其流を悉くヲロツコスメレンタ夷
くくく産業も亦其ありて山脈一
得流所乃諸歎流を悉く山脈又交易一ト
モ一川ニ源一く鮮鮭雜魚を以て食糧ナリ
此トモ一川ニ源一川源乃るより南して東
山流す流り数千里東山に流スリと稱す此
不乃湖中ノ今在流ハ流所水は流一
急流乃其くハ其流ハ流の急と稱く且
河を山嶺も多し河中乃産業も亦佐美と其
くく有り在在在在在在在在在在在在在在在在

そのあうり時、まふり、洗通す、おろす、
タライカ。エーをより川をより、
のそらう、乃、おろす、
洗し、
あふり、洗通し、
新事、

以上四條、林、
亦、
た、

産物

一、草乃類、

- 一、花乃類、
- 一、萱乃類、
- 一、竹乃類、
- 一、此、
- 一、地、

手盤を乃仕を幹 鏡ひまをまは林の如し不
け他そのまより 概夷色の産すは石の如しと
しつゝもそ種類大よかしのふ
一 五金乃産 陽くアタテは所ありとしつゝも稀よ
其言をアは事あり蓋し出産の地はあつて
一 世名硫黄を産は山あり 林産 種は不詳
一 院山温泉あり 事取

一 石品中と異はものをアは 只アテゲよりイドイ
地名 毛は乃海産よ石膏を産は
一 鳥乃類 概夷島より 交ふはものを アは 奥地 異
俗夷の部 産より 今を夏月 雁多くして子を産は

又其羽墜して 死事 ありを 産は 物の あり 沼
湖乃内り 滋く 以夷等 木を して 毛を 絞獲
せし 又 棹を 以て くれと 舟 或を 石を 投
して 是を 得は といふ

一 獸を 概夷島 あり 石の 物 二種 あり 其一を
トナカイト 稱す 其 全形 鹿乃 一 あり あり
圖乃 如く 面目を 馬に 似たり 其角 短く
突く ありと 以て 毛 柔軟 あり 物と やつて
悉く 毛皮を 産は 其尾を 牛乃 如く して
細し 此島 南方の 地を 山より 採りて 夷等 是
を 採り 皮肉を 取 概夷地 ヲ ロツ工 夷よ

上名とす満州其是を收す

池北偶談日本朝極貴玄狐次貂次槍狢獺玄

狐惟王公以上始得服

一東年タライカ西年ノテト乃迎テ一異地を海獣
群多ク一其を鯨魚乃候タライカ。海

獸乃彼上ノ出波を海ノ危殆乃群集す海ノ
如ク

一海鳥乃類 総々 概黄島乃産を海鳥乃
呂西海鳥 二アルコイ。ハチエツチエツブと稱す其
小鳥アリ其状皆鰐魚乃如ク一其形
もの 大き七八寸を海鳥をアルコイと稱し三四
寸を海鳥のをハチエツチエツブと名付く其都
乃哩云せいごと稱す其者乃如ク一 其鳥の以
海鳥ニ群集す海ノ群ニ影
一山洞乃石アリ而之をソリれ乃石と稱す一其
形状乃怪しきを以て其等思歸してこれを怪

セナ

一シラスエよりクエシフタニニシテ海の間を多量より
仲夏乃同種魚多ク一軌奥深ク後そ存在を
去らるナ

一タライカ乃湖中鮎を産すそ大き尺餘の者
多ク一其形状日本地の鮎と小異ありといふ
ヤシをけふ乃海中海扇多ク一

一奥地ノキトよりワケイ乃辺小比目魚甚大僅一

二三寸を限りとい種類乃変なはりの或果阿波
事をも弁急志丸ナキ一地夷細をいふ是を獲る
よ是是のを得る他魚阿波事一取一

一ヤカバと程ナシ不より奥地異種乃鮎奥成
産すそ肉多味よく一て常乃鮎と云ふなり

一虫乃類異形乃者をいふ大換振夷魚乃阿波地
乃めく蚊蛇乃類多ク事一振夷魚と云ふは
シ

概夷島乃少りカラフト或をタライカと稱
を統一大島有り然終と母其を境を推
勢一人をりりり

官命を蒙りて同定倫宗形若海島を
海り其地圖を取亦是は如ふ海を夷人乃於
此所お産するはよく親視勢一を乃ものを
朴上貞廉を編一免小概夷島新從也
題一 史よき史一 書有りと史よ子孫
善店此書を流せりと史へ事れは清如く文政
六年癸未の正月下旬星野殿を御写



